

令和5年度

劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業

(地域の中核劇場・音楽堂等活性化)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人東京都歴史文化財団	
施 設 名	東京文化会館	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	32,328	(千円)
	公 演 事 業	12,708 (千円)
	人 材 養 成 事 業	14,350 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	5,270 (千円)

1. 事業概要

(1) 令和5年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	舞台芸術創造事業 現代人形劇×クラシック音楽「曾根崎心中」	2023年12月16日 (土)	脚本・演出・人形操演・人形美術・衣裳：平常、音楽構成・選曲：宮田大、ヴィオラ：田原綾子、アコーディオン：大田智美、他	目標値	500
		東京文化会館小ホール		実績値	554
2	舞台芸術創造事業 現代音楽プロジェクト「かぐや」	2024年1月13日 (土)	室内楽コンサートと舞台作品「かぐや」《新制作》の2部構成。ヴォーカル：ジョセフィーヌ・スティーヴンソン、ダンス：森山開次、他	目標値	470
		東京文化会館小ホール		実績値	489
3	オペラBOX 『Help! Help! グロボリンクスだ!～エイリアン襲来!!～』	2023年9月24日 (日)	メノッティ作曲『Help! Help! グロボリンクスだ!～エイリアン襲来!!～』指揮：柴田真郁、演出：岩田達宗、他	目標値	500
		東京文化会館小ホール		実績値	523

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和5年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	第21回東京音楽コンクール及び東京音楽コンクールの充実	2024年6月～8月	ピアノ部門、弦楽部門、木管部門 総合審査委員長：野平一郎（東京文化会館音楽監督）、コンクール顧問：堤剛、フィリップ・マヌリ、他	目標値	1,950
		東京文化会館小ホール		実績値	2,810
2	新進音楽家の国際キャリアアップ支援	2023年9月8日 (金)、9日(土)、10	9月8日(金) ピアノ・トリオ 9月9日(土) ヴァイオリン&ピアノ、9月10日(日) クラリネット &ヴァイオリン&ピアノ	目標値	1,250
		東京文化会館小ホール		実績値	448

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和5年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	夏休み子ども音楽会 2023 《上野の森文化探検》	2023年7月23日 (日)	指揮：大友直人、チェロ：笹沼樹、 管弦楽：東京都交響楽団	目標値	1,800
		東京文化会館大ホール		実績値	2,186
2	Enjoy Concerts! 3歳か らの楽しいクラシック	2023年11月4日 (土)	ピアノ：白石光隆 クラリネット：コハーン・イシュト ヴァーン ヴァイオリン：滝千春(特別出演)	目標値	450
		東京文化会館小ホール		実績値	445
3	Workshop Workshop! 東 京ネットワーク計画	2023年6月～2024年 2月(通年で実施)	豊島区(6/14): 副田真之介(オーボ エ)、大槻桃斗(ヴァイオリン)、加 藤文枝(チェロ)、片田愛理(ピアノ)、 他	目標値	700
		としま区民センター8F 多目的ホール他		実績値	810

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>ミッション（社会的役割等）・ビジョンや地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>1. 公演事業 舞台空間における創造の可能性を探求した作品を国内外の演出家や出演者等とジャンルを超えた新たな切り口で作品を創り上げた。『曾根崎心中』では既存の古典台本にクラシック音楽作品を導入し、人形劇を中心とした上演を行った。『かぐや』では古典文学の「竹取物語」をベースに新曲を委嘱し、ダンスを取り入れた上演を行った。オペラ BOX では取り上げられる機会の少ないメノッティの作品を東京音コン入賞者の若手・中堅歌手を数多く起用し再演した。また、付随するワークショップ『オペラを作ろう』（コーラス出演、舞台美術作成等*助成対象外）の参加者の家族も含め、子供から高齢者までが来場し、幅広い世代が来場する目標を達成した。</p> <p>2. 人材養成 「東京音楽コンクール」を源泉として入賞者の育成に向けた事業を幅広く展開した（ミッション：2-②、ビジョン：2）。入賞者を対象としてコンサートや学校アウトリーチ（*助成対象外）、舞台芸術創造事業（2本）、オペラ BOX などへ随時入賞者を起用した。また、国際キャリアアップ支援では、チェルシー音楽祭へ入賞者2名を派遣し、海外の音楽祭での出演機会を作り、育成を目的にした各種事業を通じ目標を達成した。</p> <p>3. 普及啓発 夏休み子ども音楽会、3歳からの楽しいクラシックは、子供から高齢者までが来場するきっかけとなる公演として展開し（ミッション2-③）、児童等の入口体験となる演奏会となった。東京ネットワーク計画では、豊島区、国立市で若手演奏家（東京音コン入賞者）を起用した公演を実施した他、当館を初め、サントリーホール、トリトンホール、東京芸術劇場の4劇場・音楽堂が行っている若手演奏家支援プログラムと連携した公演を実施（一般公開）したことによりビジョン3及び4で掲げた目標を達成した。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>・ 文化的意義 公演事業の現代音楽プロジェクト「かぐや」（世界初演）での新曲委嘱、作曲者自身の歌唱出演、森山開次のダンスを伴う新作初演の実施は、評論、アンケートなどから現代音楽作品委嘱の意義を見出した作品として高い評価を受けたこと、将来ヨーロッパでの再演を見込むことから、我が国全体の舞台芸術の水準向上に寄与した。</p> <p>・ 社会的意義 人材育成事業の東京音楽コンクールで入賞した出身者を起用し、アウトリーチコンサートやアウトリーチワークショップ（*助成対象外）を通じ都内全域の幼稚園から中学校まで派遣演奏を提供している。これにより文化・芸術活動を地域社会（都内全域）へ還元するとともに、社会的のみならず教育的な意義も含めて貢献している。</p> <p>・ 経済的意義 公演事業のオペラ BOX では継続して地域連携事業として上野中央通り商店会の協力を得ていることで、当該地域での不特定多数へ向けた広報、チケット購入などを通じ、地元地域経済活動の活性化に繋がる文化事業として定着しつつある。また、普及啓発事業の夏休み子ども音楽会では、美術館、博物館等の文化施設、上野のれん会とタイアップし当日利用可能なパスポート、飲食割引等のサービスを実行したことで上野公園内文化施設及び近隣経済圏への複合的な貢献を果たした。これらにより地域経済活性化の一助となった。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

公演事業

目標①既存の枠に捉われず、舞台空間の創造の可能性を探求した作品を国内外の一流の演出家・出演者等とともに創り上げる。

指標①オリジナルの作品創造件数及び満足度 計3件 87%、実績①実施件数と満足度：計3件 92.6%

目標②若手を起用し、子供から高齢者まで気軽に楽しめる舞台芸術を提供する。

指標②若手を起用した子供から高齢者まで気軽に楽しめる舞台芸術の実施件数及び満足度 計1件 82%

実績②実施件数と満足度：計1件 95%

目標③多ジャンルのアーティストや若手を起用し幅広い層が来館しやすい内容、料金設定の公演を提供する。

指標③多ジャンルのアーティストや若手を起用した公演（助成申請した3事業）への東京音楽コンクール入賞者起用数と入場達成率、7人/入場達成率:109%、実績③入賞者起用数と入場達成率、8人/入場達成率:109%

*公演事業…すべての目標を達成した。舞台芸術創造事業は2演目を新制作し、文字通り人形劇、ダンスといった多ジャンルのアーティストを起用し、『曾根崎心中』は人形劇を中心とした上演として舞台芸術の可能性を追求した。『かぐや』では古典文学の「竹取物語」をベースに新曲を委嘱し、ダンスを取り入れた上演を行った。以上新制作は、新聞等の批評でも高評価を得た。オペラBOXでは東京音コン入賞者の若手・中堅歌手を数多く起用した他、低廉な料金体系として幅広い層が来場しやすい環境とし、初演時に比べ入場者数も増加した。

人材育成

目標①「東京音楽コンクール」入賞者の育成に向けた事業を幅広く展開する。

指標①「東京音楽コンクール」入賞者の各事業への起用数、198名 実績① 191名

目標②「東京音楽コンクール」の認知度の向上を図り、若手音楽家のファン層の拡大を目指す。

指標② 観客の満足度とリピーター割合の増加、74%/57%、実績② 80%/68%

目標③海外との連携によるレベルアップや、邦人若手アーティストの海外における活躍の機会の創出を目指す。

指標③海外との連携件数、1件、実績③海外との連携件数、1件（*ニューヨークチェルシー音楽祭）

*人材育成事業…①は若干目標を下回った。ソロでの出演が例年より多かったことによる。一方、②③は、目標を達成した。

普及啓発

目標①「音楽への入口体験から本格鑑賞・演奏」への橋渡しを担う段階的な事業を実施する。

指標①本格的なコンサートを子供対象として実施する件数と満足度、実施件数：2件/90%、実績①2件/94%

目標②誰でも気軽に立ち寄れる無料のコンサートを他の文化施設等と連携して開催する。

指標②誰でも気軽に立ち寄れるコンサートの連携件数：3件、実績②：3件（としま、国立、）

目標③地域や、他の都立文化施設等と連携しながら、幅広い取組を長期的な視点で展開する。

指標③地域や都内文化施設等との連携件数：18件、実績③：15件

*普及啓発…③（夏休み子ども音楽会、東京ネットワーク計画）は前者で想定した近隣施設の参加が事情により減少したため目標に達しなかった。一方、①②に関しては共に目標を達成した。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

1. 公演事業

対象3事業共にリハーサル、公演本番共に予定通り実施できたことから事業期間は適切であった。

- ① 「曾根崎心中」…新制作の舞台芸術創造事業であったが、演出を初め、舞台プランナーは当シリーズでの経験があり舞台の構造、特性を熟知していることから当初計画通りに上演まで進行した。
- ② 「かぐや」…英国人作曲家（公演で出演も兼務）への委嘱作品の世界初演となったが、プログラム前半は室内楽公演、後半に当舞台作品を配置するなど作曲期間、リハーサル等、当初計画通りの進行となった。
- ③ 「オペラ BOX」…2017年に初演した作品の再演であり、全て計画通りに進行した。

2. 人材育成

- ① 東京音楽コンクール…ピアノ・弦楽・木管の3部門全て応募受付から実施に至る全てのスケジュール及び外国人審査員の来日も全て計画通り実施することができた。
- ② キャリアアップ支援…ニューヨーク・チェルシー音楽祭と連携を行い、全ての公演を計画通りに実施した。

3. 普及啓発

- ① 「夏休み子ども音楽会」…発売から公演まですべての点で計画通り実施することができた。特にチケットの売り上げが好調で早期に有効座席が完売した。
- ② 「3才からの楽しいクラシック」…発売から公演まですべての点で計画通り実施することができた。
- ③ 「東京ネットワーク計画」…通年事業としてプログラム①から③まですべて予定通り実施することができた。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

1. 公演事業

当初申請額：34,952,000円、決算額：32,626,103円（-6.7%）

上記の通り、3事業共にほぼ当初計画通りの事業費支出となった。収入面では、要望時チケット収入5,280千円に対し、6,814千円と30%程度売り上げが伸びたことで自己財源比率が低下したため、当初計画より好転した。

2. 人材育成

当初申請額：39,175,000円、決算額：32,369,281円（-17.4%）

東京音楽コンクールの審査員渡航費等、広報費等を創意工夫、節減したことでコンクールの趣旨目的に沿った内容を変更することなく、当初申請額を15%程度節減した。またキャリアアップ支援では、最大4名分の渡航費を計画したが、事業全体（助成対象以外を含め）の資金バランスを考慮し、2名にすることで節減を図った。

3. 普及啓発

当初申請額：12,714,000円、決算額：10,127,000円（-20.3%）

「夏休み子ども音楽会」はチケット販売状況が好調だったため、広報宣伝に関してチラシ等の経費を結果削減したことにより、当初より事業全体として20%程度の支出減となった。「3才からの楽しいクラシック」、「東京ネットワーク計画」は、予定通りの予算計画で遂行した。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

1. 公演事業

①「曾根崎心中」…新制作の舞台芸術創造事業として、演出の平常氏を初め、舞台プランナーは当シリーズでの経験があり舞台の構造、特性を熟知していることから期間、予算等の範囲内で創造性を追求した上演となった。

②「かぐや」…英国/フランスの作曲家に作曲委嘱し、当館でクリエーションを行い世界初演として上演した。創作の過程では、国を超えた共演を通じ、練り上げられた創作作品が完成した。

以上により、創造発信型の公演事業を通じ、地域の文化拠点として創造性が高く、当館の機能を最大限に発揮した事業として成功した。

2. 人材育成

① 東京音楽コンクール…当館の音楽監督を審査委員長とし、国内外の現役の演奏家や音楽教育者を中心とした審査体制と、異なる楽器で競う部門制、入賞後の手厚いサポート体制を用意し、日本国内のみならず、国籍・居住地を問わず参加できる開かれたコンクールとしている。第1次予選から小ホールで演奏審査を行い、本選では在京のプロオーケストラとの共演により協奏曲を披露するなど、貴重な演奏体験、研鑽の場ともなった。一方で、観客にとっては廉価で実力ある音楽家の演奏に接する機会として、クラシック受容層の拡大に寄与した。入賞後は当館の主催事業に積極的に起用する他、音楽関係者等に入賞者を周知し活動支援を行う点などで他のコンクールとの差別化を図っている。また、海外からの審査員招聘により、国際的なコンクールとしてのイメージを確立させるよう実施したことで地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮した。

② キャリアアップ支援…チェルシー音楽祭（米国、ニューヨーク市）との連携により、同音楽祭へ2名の東京音コン入賞者を派遣し演奏会を行った他、当館でも現地から2名の演奏家を招聘し、演奏会を行ったことで、我が国の若手演奏家が海外での公演の実現及び国際交流の機会となった。また日本初演となる作品を取り上げることで現在の最先端の音楽シーンを紹介する機会となった。

以上により、若手演奏家の発掘及び育成という観点で地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業展開となったと自負している。

3. 普及啓発

③「東京ネットワーク計画」…首都圏各地で独自の若手アーティスト育成・支援事業を行う劇場・音楽堂が連携し、「音楽を聴くことで繋がる未来」を探ること、併せて人材育成に取り組む施設や団体との連携を図ることを目的として3つのプログラムから若手アーティストと文化関係者らを繋ぐ事業に取組んだ。

都内文化施設との連携によるコンサート（豊島、国立）では各主催ニーズに応えるプログラムを組み、満足度も高かった（プログラム1）。若手音楽家活動支援セミナー（音楽家のためのインボイス制度講座）では、各参加劇場・音楽堂間の連携も図り、それぞれの育成プログラムに参加する若手音楽家が個人事業者として参加し、本ネットワークが強化された（プログラム2）。アフタヌーンコンサートは前述の参加劇場・音楽堂アーティストへ演奏機会及び活動の発表となる場を提供することで若手アーティストの支援に繋がったと考える。地域の音楽文化ならびに、若手アーティストの支援に繋がったことで地域の文化振興に貢献した。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

1. 公演事業

「オペラ BOX」…地域連携事業（協力：上野中央通り商店会）として従来のオペラファンに留まらない、新たな顧客開拓に取り組んだ。また、付随事業（助成対象外）として、青少年及び次代を担う若者に舞台制作過程の見学や学びの機会を提供したほか、出演等の経験を通じ、舞台芸術の魅力と理解を深める機会としたことで、地域の文化芸術の発展に貢献したと自負している。

3. 普及啓発

①「夏休み子ども音楽会」…夏休み期間に、ファミリー向けのオーケストラコンサートを、楽器紹介などを交えながら実施。演奏会前後には上野公園内の日本を代表する美術館・博物館・動物園等の参加施設（常設展）へ入場出来るよう、チケット購入者には、参加施設の入場パスポート特典が付くほか、上野のれん会加盟店で音楽会のパンフレットを提示すると、ドリンクや割引のサービスも受けられるサービスを付帯したことで、下記の参加館に公演前後に参加者が入場したことで、上野公演内文化施設及び地域活況の一助となり、活性化に寄与したと考えている。

参加施設：上野動物園、東京都美術館、東京国立博物館、国立科学博物館、国立西洋美術館、国立国会図書館国際子ども図書館、旧東京音楽学校奏楽堂、旧岩崎邸庭園

②「3才からの楽しいクラシック」…3歳から6歳の未就学児とその家族を対象とし、はじめてのクラシックコンサートへの導入を図る機会とした。音楽性、芸術性が高く、ワークショップや幼児向けコンサートの経験豊富な社会性に富んだアーティストを起用した。楽器や楽曲の解説や、体験参加型のワークショップを盛り込んだ構成による1時間のコンサートを実施。近隣の幼稚園への告知をすることで地域の文化力の向上、実演芸術を通じ、地域音楽文化の活性化を図った。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

●東京文化会館の事業運営（Plan）

当館は、将来の姿として「より多くの人々に集い親しまれる劇場」を目指している。

これまで、「音楽・舞台芸術の殿堂」としての高い評価を築いてきた、中核的価値を守るべく、高水準の舞台芸術公演を鑑賞でき、「満ち足りた芸術体験」の時間を過ごせる空間であり続ける。

さらに、こうしたコアな音楽ファンを大切にしつつ、音楽・舞台芸術の素晴らしさをより多くの人々が体験できるよう、当該自主事業を通じ、「音楽への入口体験から本格鑑賞・演奏への橋渡し」をするとともに、乳幼児から青少年、子育て世代、高齢者までのあらゆる世代、障害者、外国人等様々な層が「参加交流」できる「広場」となり、「社会包摂」のための「居場所」となることを意識している。

そのためのビジョン（活動の実施（Do））は、以下のとおりである。

●公演鑑賞機会の提供と質の高いホールサービスにより、60年以上の歴史と伝統を誇る“音楽・舞台芸術の殿堂”としての価値をさらに向上させる。

①新たな舞台芸術を創造・発信（舞台芸術創造事業、オペラBOX）。

②新進音楽家等の専門人材の育成（東京音楽コンクール、新進音楽家のキャリアアップ支援）。

③次世代あるいは潜在的顧客への教育普及（夏休み子ども音楽会、3才からの楽しいクラシック、東京ネットワーク計画）などの公演等を展開することで、“投資”に取組み、芸術文化の継承・発展に貢献するとともに、芸術文化の力を活用した社会包摂・社会的課題の解決に向けた取組を進める。

●自己評価/アンケート/事後評価（Check）

・これらについては、別途記載、分析のとおり。

●Checkを活かした改善（Action）

上記、自己評価での（1）妥当性、（2）有効性、（3）効率性で記載・分析の通り当該事業では、概ね全ての点で計画通りに事業を遂行・実現した。

★以上の推進及びこれまで培ってきた劇場・音楽堂としての機能を活用し、事業を通じ、音楽文化の伝統を継承、持続、発展を目指していくことで、より多くの人々に集い親しまれる劇場・音楽堂としての存在を引き続き追求していく。